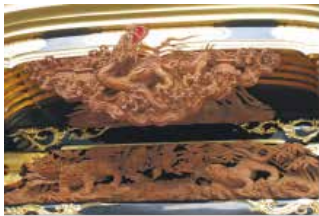


掛塚屋台と立川流



本町屋台の彫刻。富種の「八岐大蛇」(懸魚)と伝十の「虎に獅子」(欄間)

掛塚の屋台は、諏訪立川流の影響を強く受けています。立川家は、諏訪に生まれた初代富棟から四代富曄までが和四郎を名乗り、信州や東海道筋で優れた建築や彫刻を残しています。立川流の建造物は、信州の諏訪大社を始め各地にありますが、県内では静岡浅間神社の彫刻をはじめ、横須賀の三熊野神社や見付の淡海国玉神社の社殿などに残されています。

の娘婿、立川昌敬によって制作され、新町屋台の彫刻も、和四郎が三年かけて作ったものと伝えられます。また、本町屋台は、その製作を依頼された三代富重の弟、専四郎富種が、鬼板懸魚、欄間の彫刻を手がけ、屋台は掛塚の木工、鈴木伝十らに任せたといわれています。立川流の技を学んだ鈴木伝十は、晩年砂町屋台の彫刻を手がけ、町外でも高い評価を得ました。明治十四年に貴船神社の神輿を製作した鈴木勇次郎は掛塚の木工で、多くの弟子を育てましたが、そのうち坂田歌吉、平野勘蔵の二人は、それぞれ中町・蟹町(坂田)、横町(平野)の屋台を製作し、さらにその子孫(小池佐太郎・清、平野孝・道雄)も屋台大工となつて、遠州地方の多くの屋台製作に携わり、掛塚型の屋台を広めました。

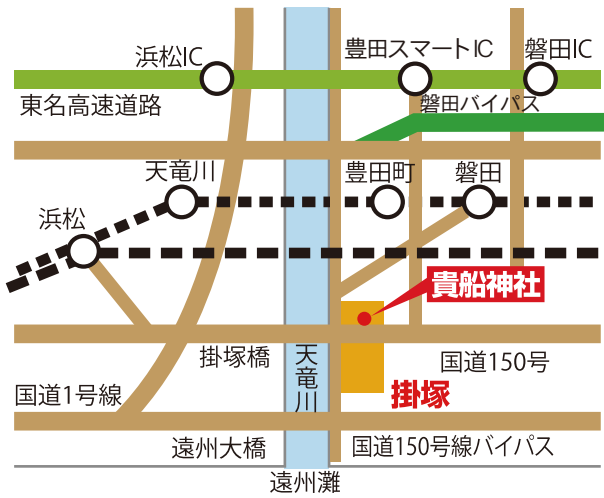


駒ヶ根市に招かれて演奏した舞台

掛塚まつり屋台囃子

掛塚の屋台は、囃子を奏でながら神幸行列に供奉する囃子屋台と考えられます。この囃子は、静岡県指定の無形民俗文化財になっており、八曲が伝承されています。その中には、南北朝時代に後醍醐天皇の皇子、宗長親王が白羽の湊に漂着したときに、親王の家臣から伝授されたと伝わる「御公卿(おくげん)囃子」があります。この曲は、祭りが終わって屋台が自町へ帰る時に演奏される曲で、荘重な趣があります。

このほか神楽囃子、馬鹿囃子、出船囃子、入船囃子、大庭囃子、本囃子があり、屋台の動く場面によって曲目を変えています。また、道中(みち)囃子は、演奏する人が屋台に乗らず、道を歩きながら奏でるもので、楽器も鼓、大鼓、錫杖などが用いられる、他の曲とは一風変わった囃子です。県内の祭囃子の多くは、関東系の囃子ですが、掛塚は西からの影響を受けているようです。昭和四三年に「掛塚屋台囃子保存会」が結成され、以来文化財の継承に努めています。小学校での演奏指導など、後継者を育成する活動をはじめ、関東プロック民俗芸能大会への出場や、「いわた大祭り」などの地元イベント、国際交流活動などへの参加を通して地域の活性化にも貢献しています。



J R 磐田駅・浜松駅からバスで30分
東名磐田IC・豊田スマートIC・浜松ICから車で30分
駐車場は、掛塚橋下の河川敷をご利用ください

ナイスパスは
遠州鉄道株式会社 磐田営業所 0538-32-4161

遠州鉄道株式会社

あなたの夢に、追い風を。

浜松いわた信用金庫

竜洋支店 TEL 0538-66-3231 FAX 0538-66-4160

静岡銀行 竜洋支店

TEL 0538(66)2724 2620018

ときめきネットワーク
JA遠州中央 竜洋支店

TEL0538-66-2411 FAX 0538-66-6668

社会福祉法人 白寿会

〒438-0234 静岡県磐田市掛塚3172番地
TEL (0538) 66-5231 FAX (0538) 66-5517

貴船神社

磐田市掛塚926-1

明治安田

浜松城北営業部 TEL 053-478-7227

編集・発行
掛塚まつり協議会資料調査部
編集責任者 名倉 慎一郎
0538(66)4775

令和8年

掛塚まつり

650年の歴史と伝統を今に伝えて



- 掛塚祭屋台囃子(静岡県指定文化財)
- 掛塚祭屋台・同竹馬(磐田市指定文化財)

10/17^土18^日

静岡県磐田市掛塚 掛塚まつり協議会

湊町掛塚と廻船問屋



廻船問屋旧津倉家住宅

掛塚は江戸から明治期にかけて、天竜川上流の木材を江戸、大坂に積み出す湊町として、繁栄しました。既に室町時代

には、五山の僧、万里集九が掛塚に滞在した記録が残されており(『梅花无尽蔵』、中世から湊としての機能を備えていたと考えられています。町内には、津倉家や林家などの廻船問屋の建物が残されており、江戸の帰りに積み込まれた伊豆石を使った石蔵や石堀

も見られます。令和五年には、旧津倉家住宅(主屋・応接棟・土蔵)が、国の登録有形文化財となり、鶴谷家住宅・旧掛塚郵便局とあわせ、三件六棟の建物が登録文化財となりました。

この廻船問屋は、江戸時代には二十軒程でしたが、明治期には四十軒前後となり、廻船は六〇〇八〇艘を所有して、深川木場の材木商と盛んに取引をしていました。また、天竜川の川岸には、木挽小屋(鋸で製材する仕事場)が並び、まちには大工や建具職人が多く住み、木挽や大工が使う鋸を造る鋸鍛冶も多く、木材加工の一大拠点となつていました。街には多くの商店が建ち並び、遊廓なども賑わつて、近郷近在からたくさんの人が訪れるこの地方の中心地であつたのです。

貴船神社と掛塚まつり



貴船神社拝殿

京都にある貴船神社は、水を司る神として篤く信仰されてきましたが、この神社が掛塚に勧請され、廻船の航海安全を祈る神社として、廻船業を営む豪商や船頭たちの信仰を集めてきました。

この貴船神社の例大祭は、毎年十月の第三土曜、日曜日に行われます。祭りの中心は、日曜日に行われる神輿渡御の行列ですが、これに供奉する九台の屋台は、廻船問屋の財力を背景に造られた豪華なものです。

祭りの起源ははっきりしませんが、先代の神輿には「宝永四年」(一七〇七)の朱漆の記載が、神輿に付けられた銅鏡には「元禄十年」(一六九七)の銘があり、江戸初期にはこの祭りが存在していたと考えられます。また、天保十五年(一八四四)の書類には、神幸行列に町々屋台の供奉が記されていて、江戸時代の後期には屋台が曳かれていました。

この祭りには、随所に湊町の面影が見られます。行列には「渡海安全」「廻船長久」などの幟が加わり、氏子から奉納された御座船「明神丸」が供奉します。また、「竹馬」と呼ばれる、竹のバレンを持った先払いが、辻々を払って行きます。東町の若者が勤める役ですが、令和六年に磐田市の無形民俗文化財に指定されました。